

## つくっているときに注意すること

### ● ブロック塀の工事中（または、設計図）のチェック事項

ブロック塀は、完成してからでは工事の不備はわかりません。工事中に設計図通りに仕事ができているかチェックをしてください。

工事に不備があって、地震などの災害でブロック塀が倒れて人災、物損などが起きても誰も責任は取ってくれません。

**民法上では建築主が賠償責任を負うことになっています**

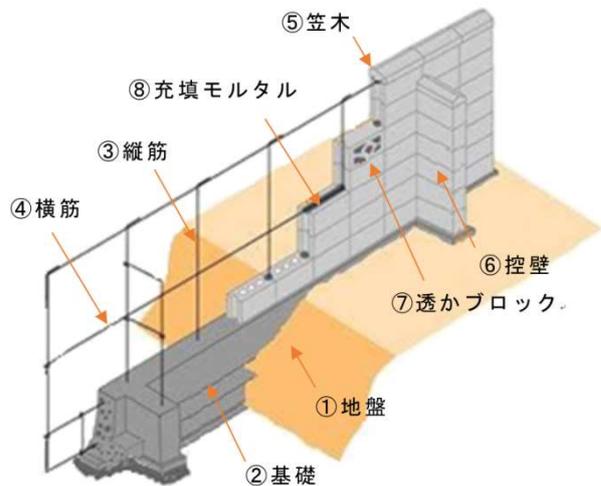


図3 ブロック塀チェックポイント

#### ①地盤：地盤は軟らかくないか

地盤は、ブロック塀全体の重量を支える役目をもちます。基礎と一体となった塀が地震等で倒れないようにするには、地盤に見合った基礎の形や根入れ深さ（地面の中に埋め込まれる深さ）が必要です。盛土された地盤では、大きくしっかりとした基礎が必要です。また、余分に掘ったところを埋め戻すには、なるべくべとべとした粘土質系でなく、さらさらでよく締め固められる良質な土を使うことが必要です。

#### ②基礎：基礎は鉄筋コンクリート造か、根入れ深さは十分か

基礎は、鉄筋コンクリートでつくり、その上のブロック造の壁と一体となって、地震などの横からの力にも倒れないよう地面に35 cm以上（塀の高さによって45cm以上）埋める必要があります。**掘った地面に砂利などを撒き、モルタルを流し込み、そこに縦筋を埋め込むなどということは絶対にしてはいけません。**

基礎は、低い塀ではI型が、道路など境界沿いではL型が、敷地に余裕があるときは逆T型とします。地盤が弱い場合は、鋼管杭打ち基礎などとします。

#### ③縦筋：縦筋は、基礎の中から塀の頂部までの長さとなっているか、鉄筋の直径は1cm(D10)以上、間隔は80cm以下（塀の高さによっては、D13以上、間隔40cm以下）となっているか

縦筋は、塀にかかる横からの力（地震や風などによる）に負けないようにがんばる大切な背骨のようなものです。基礎の中から壁（塀本体）の上までを1本の鉄筋を使って立ち上げます。

基礎への埋め込みが浅かったり、鉄筋を塀本体の途中でついだりしないでください。地震のときに、鉄筋が塀から引き抜けて倒れる原因になります。

**④横筋:横方向の鉄筋は直径1cm(D10)で、間隔が80cm(一般には60cm)以下となっているか**

横筋は、塀の長さ方向を1枚の板のようにする役目をもつもので、控え壁があるときは塀本体と控え壁をつなぎ全体が一体となるための大切な鉄筋です。

**⑤笠木:笠木はあるか、笠木はしっかりと下のブロックに止められているか**

笠木は、塀のなかへ雨水がはいり込むことを防ぎ、ブロックや鉄筋を保護する大切な役目をもっています。笠木が浮いていたり、少しの力で落ちたりするのは危険です。笠木はモルタル等で壁に確実に固定します。

**⑥:控壁の間隔が3.4m以下となっているか、塀本体と一緒につくられているか**

控壁は、倒れようとする塀を防ぐ役目を持ちます。塀の高さが1.2m(条件によって1.6m)以上になるときは、塀の長さ3.4m(塀の端部は0.8m)以内ごとに控え壁が必要となります。控壁は、基礎にも壁にも鉄筋を入れて塀本体と一緒につくります。

控壁の部分だけを塀の本体より深く基礎を下げ、塀を倒れないようにする方法(控下基礎工法)を採用すると基礎を小さくすることができます。

**⑦透かしブロック(ガラスブロック):縦や横方向に連続して使われていないか**

透かしブロックは見た目や風通しのためというだけで多く使うと、塀の強さが弱くなります。特に横方向に2つ以上連続して使うと、その部分に必要な縦筋が十分に入らないので、地震のときに倒壊などの被害がでる恐れがあります。

**⑧充填モルタル:鉄筋の回りや縦目地部分の空洞にモルタルを充填しているか**

充填モルタルは、鉄筋とブロック、ブロックとブロックを一体化させるもので、塀全体を強く丈夫な1枚の壁とする役目をもちます。また、鉄筋を錆(さび)させない役目ももっています。

ブロックの空洞に入っている鉄筋のまわりにモルタルが十分に詰められていないと、塀が十分な強さを発揮できなかつたり、鉄筋が錆びて塀の寿命を短くさせます。

**⑨その他:設計図・工事記録及び工事写真の提出を依頼したか**

ブロック塀工事に対する設計図、工事仕様書が契約書に添付されてあればよいのですが、小規模のブロック塀や設計図等がない場合は、最低限契約前に巻末の工事記録表と工事写真記録簿の提出を依頼しておきます。工事写真は、工事の工程ごとの写真を撮りまとめ1冊の写真帳とします。これらのことが、塀の品質向上、また塀の価値により影響が生まれます。

**= ポイント =** あんしん・あんぜんなブロック塀をつくるには、設計や施工管理を建築士や施工管理技士に、施工はブロック技能士やブロック工事士が在籍している会社に依頼することが一番大切なことです。新築建物と同じように工作物として確認申請を行うこともあんしんあんぜんなブロック塀をつくる近道です。